



モテからの脱  
出「喪男の哲  
学」

みのり

## モテからの脱出「喪男の哲学」

---

「喪男本」は哲学・宗教+オタクカルチャーのガイドブックといってもいいと思います。

何より、哲学も宗教も「モテたくて」の裏返しから始まってるって喝破しているのがいい。

この本以前に随分昔に「モテたくて」という本を人から薦められて読んで納得したことがありましたがその時からこの世の不条理を説明するのに「モテたくて」を何度引用したことでしょ

。そしてあらたに「非モテ」が登場したのです。

「喪男」は「モテ」の反対なのですが、喪男からモテへ一発逆転の道筋があるように「モテたくて」も元々は「喪男」から派生した物語といえるだけに根っこは一緒です。

「モテ」から宗教のことまで理解できます。「汝の隣人を愛せ」などすばらしい教えがあるのに、全然実践できてないと思われる、私が長い間不審に思っていた宗教への疑問なども明快に解説してありました。

「イエスに萌えれば萌える程、イエスに萌えない異教徒を打ち倒したくなってしまおう、という悪循環にハマった」「ほとんどの人類に、イエスの教えは実践は難しすぎた。」と書いてありました。

組織化・個人のカリスマ化・大系化は、本来の思想を覆してしまうということ～なのです。

「やっぱりね～」と納得できる説明でした。

「宗教」の必要性とその功罪がよくわかることもこの本の良いところです。

ノールールでいることの現世界の恐ろしさはわかります。でもルールは1つではないのです。

同じルールであれば、話はわかりやすいです。国境を越えても同じルールを提供するとしたら宗教になります。

しかし、世界に宗教は1つではないので、やがて押し付け合い争いになり、よりパワーのある方が勝者となり本来の「宗教」の教祖が説いた話は全く蚊帳の外になります。

結局、人間で自分以外の方が怖いのです。そして怖くないとわかったら勝者でありたがり、その力を誇示します。強者が「強くモテ」でいられるから誰もが勝ちたがります。どうしようもないですね。

でも、私の中にもその災いが潜んでいます。自分の好きなものを否定されたりするのはやはり哀しいと思うからです。自分が良いと思ってるものを真っ向から否定されると「私ってセンスないのかな」とか「バカなのかな」と思ったりするからです。否定を否定し返したくなります。

でも同時に、自分が好きなものを、みんなが好きというのもおかしいことだとちゃんとわかっているんで攻撃をやめようという自制もあるのです。

それに「私だけがこれのよさに気付いているのよ」的な喜びを見いだせる力ももっているの

です。だから「相手にわからせたい！」とか「復讐したい」とかは思わないのです。  
「自分だけがわかってるからそれでいいの」と自己完結型です。

多分それは「モテ」や「勝者」へのベクトルが全く逆ということになると思います。

そうすると、そういう気持ちが割りと強めな「モテ」を気にせず生きているオタクや腐女子  
のが、世界平和に貢献できるのか？と思うのですが、実は「モテ」を意識しないばかりの人類は  
発展しないかもしれません。この辺りのバランスが難しいのでしょうか。

そしてオタクや腐女子の中にも、自分が好きなものが一番といい、組織化、体系化したい人も  
沢山いるのでオタクばかりで世界平和というのもありえないかもしれません。

やっぱり人間はそう簡単に「モテ」の力から抜け出せないようです。

私は「モテ」から抜け出したと思えるけど、まだまだなのではないでしょうか。

モテからの脱出「喪男の哲学」

<http://p.booklog.jp/book/44577>

著者：みのり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/holilyoc/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44577>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44577>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.